

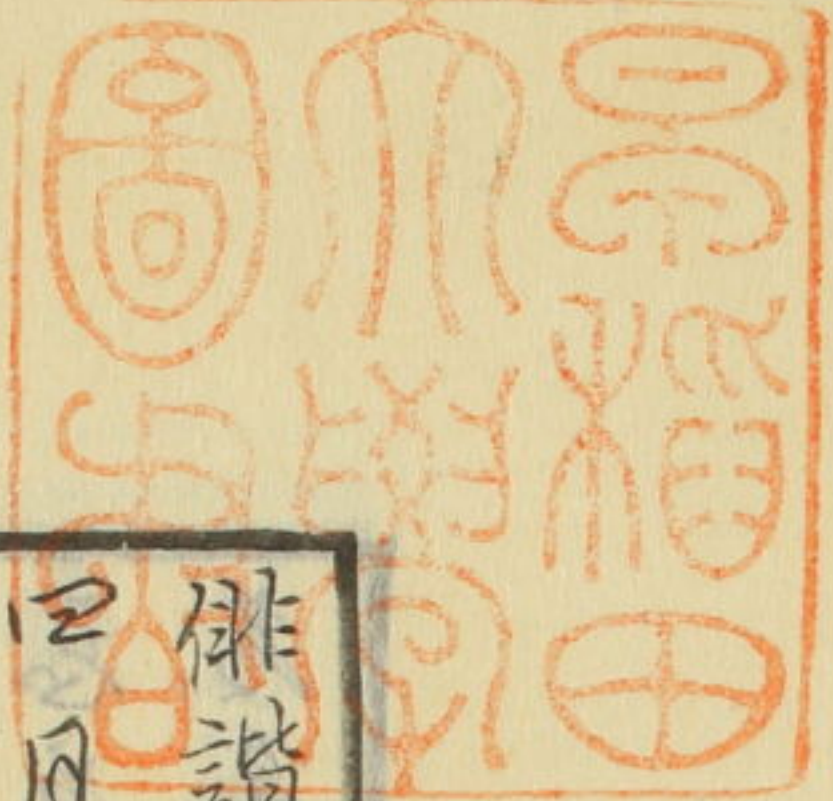
世葉句集

5  
4517  
1



4517  
12

門 5  
4517  
卷 1



俳諧近世歌句類題集夏部目錄

日月	卯月	初交	菖蒲	更衣	綿貫
袷	夏衣	浮衣	夏羽織	筑	祭
灌佛	若葉	若楓	卯花	抽花	早橋
柿花	栗花	桐花	女貞花	棕花	栗花
青梅	青嵐	桑搖	夏柳	夏木立	茂
木下園	夏盤木	夏籠	夏秋	夏刈	小麦
短夜	夏夜	夏月	夏時鳥	夏布穀	老鶯
水雞	地鷲	羽衣	松	鳥	鶴
浮泉	水雞	蚊	土	蚊	火
					樹

昭和十一年  
二月二十四日  
海求



紙帳	蚤	土蠅	螢	火取虫	毛虫
棒振虫	水馬	飛蛾	蛸の子	蝙蝠	牡丹
芍薬	杜若	水蓼	苦竹	芥子花	浮葉
卷葉	初茄子	花茄子	松魚		
五月	檄	甲	粽	柏	菜玉
石地打	藥降	葛蒲	花あや	蓬蒿	あや天刀
さうめ湯	競馬	大馬	竹植	竹の子	若竹
鹿子	照射	火串	蛭牛	蛞蝓	枝蛙
忘草	一ッ葉	管草	常木	十葉花	橙子
夏夏	石竹	百合	夏菊	葱	美人草

夏目一

鳶尾	青き	夏芦	花菱	芒茨花	覆盆子
藜	蓼	酸醬花	夏萩	田植	入梅
又月夏	又月園	苗			
六月	水雲月	氷室	不二沼	鞍馬弥伐	祇園
赤定	庭取	庭取	紅竹	錦花	海花
栗前	胡广花	控花	笠櫃花	藍川	風葉
武陽花	掖花	檉花	凌霄	栲花	苧麻
百日紅	夏野	夏草	夏山	共青田	海松
芍薬	石葛	河骨	萍	荒藻花	藻川
瓜	瓜花	蓮花	蟬	夏雲	雲峯

白雨 <sup>世</sup>	昼款	川鴉	鶴 <sup>世</sup>	涼
納涼	暑	大暑 <sup>世</sup>	日傘	炎天
風蕙	去用	帷子	羅	芭 <sup>世</sup>
麻以巾	掛灸	汗	汗拭	扇
簞	竹奴人	竹奴	抱篋	共篋枕
水飯	冷汁	一夜酒	鮎	鯨
林檎	李	葛水	梅干	香需菽
泉	茅打福	御被 <sup>共</sup>		清水
				清月 <sup>世</sup>
				固扇 <sup>世</sup>
				心右

夏目二

俳諧近世歌句類題集夏部

江戸雀堂来曾編

四月

五月  
 六月  
 七月  
 八月  
 九月  
 十月  
 十一月  
 十二月  
 卯月  
 梅檀のりしめく西の甲月か首三

初夏

初夏の風を新緑の谷の傍  
標  
夏もなほ花は咲く  
内なる心は静かに  
こころは静かに  
高

青空

空のふちから  
か  
夏  
士朗

梅雨の空は  
年  
あ  
こころは静かに  
梅雨の白  
綿

ま  
綿  
冷

あ

旅する日もあつてさうして  
 口角に人のあつた旅の  
 のちをたもて旅する  
 先づの横より神七旅の  
 旅するさうしてさうして  
 旅する

とよはまきこむるやあつた  
 旅する旅する旅する  
 旅する

山松  
 未嘗

二

旅する日もあつてさうして  
 口角に人のあつた旅の  
 のちをたもて旅する  
 先づの横より神七旅の  
 旅するさうしてさうして  
 旅する

とよはまきこむるやあつた  
 旅する旅する旅する  
 旅する

山松  
 未嘗

二

夢さふく川流の波はささく 魯臨

滝佛

滝仙や卯の仏を静く 嘉徳

清仏乃生一とて名山 乙二

滝佛の指の先は身延山 士相

涼川と寺は拵せしは舎 三六

天竺より浴佛の在湯は 完未

湖より日枝あり仏の在湯は 後也

佛せしむる卯月より言日よ 牧巻

新樹

さのさ入るに 乙二 士相

櫛しむるに 乙二 乙二

傘乃とむるに 乙二 景記

寸色の月もむるに 乙二 中成

舟返の歌はむるに 乙二 櫛也

舟も舟の歌はむるに 乙二 葛三

山立のふく声はむるに 乙二 完未

若楓

多御遊行入るに 乙二 三六

卯元

舟の心も田舎の梅の枝は、  
 まさか入りの心も、  
 踏まへずの心も、  
 舟の心も、  
 舟の心も、  
 舟の心も、  
 舟の心も、  
 舟の心も、

往つて海を渡る、  
 舟の心も、  
 舟の心も、  
 舟の心も、  
 舟の心も、  
 舟の心も、  
 舟の心も、

高橋

橋は我ハ昔々の男ハ、  
 橋は我ハ昔々の男ハ、  
 橋は我ハ昔々の男ハ、  
 橋は我ハ昔々の男ハ、

栗丸

ちのまらの船、  
 ちのまらの船、  
 ちのまらの船、  
 ちのまらの船、



葉のつれなくもさかすまのなま 未嘗  
相の花 女貞花

清く涼しく暮らさるる相花 三光

あつらひららるる世に安んずる 庭方

棕花

棕櫚の花をさかすまの山にまきく 對竹

亭花

西のつれなく暮らさるる花の日記に 大石

音梅

音梅や鳥もさかすまの音に 景光

友水

音梅や鳥もさかすまの音に 未嘗  
音光

山に安んずる世に安んずる音梅 士朗

中つららるる世に安んずる音梅 鳥章

有明の世に安んずる音梅 鳥章

音梅

音梅や鳥もさかすまの音に 雨塘

音梅や鳥もさかすまの音に 未嘗

夏柳

音梅や鳥もさかすまの音に 景光

夏柳 月の為にも極きめし 族美  
夏子

負くとき村を去るのまゝに 士朗  
我希とてふんくそせんあまに 族美  
鳥さのこまのりるのまゝに 宗飛  
おのれの降もあやうくまに 完東  
あす

わらわと流のまゝにあまに 士朗  
島山乃あやうく入る 早龍  
あまのよきなるまのあまに 葛三

お下園

おのり山園のあまのこは 葛三  
常盤不敬

楠ちるわらわの書あまに 三六  
夢のあまのあまのあまに 三六  
おのりのあまのあまに 井眉  
あまのあまのあまのあまに 道徳  
夏あま

あまのあまのあまのあまに 葛三  
あまのあまのあまのあまに 千敦

新島... 一葉  
夏百日人の... 完未  
さる夢... 万和  
夏秋

夏... 蒼地  
浦... 坂山  
心島... 士胡

夏... 三六  
夏... 柳也  
夏... 五七

夏... 横生  
新夏  
秋... 一葉  
夏夜

夏... 士胡  
夏... 三六  
夏... 柳也  
夏... 横生

夏物

くさの国をばかきつる海松齋

まのおかまじいさあつる唐にし 大石

まのおかまじいさあつる唐にし 可於皇

かゝの夜に踏らるる明子 傳

まのおかまじいさあつる唐にし 首三

夏月

まの月松や柳のよのし 士朗

かゝの夜に踏らるる明子 三子

まのおかまじいさあつる唐にし 三子

おんま

まの月松や柳のよのし 為旅

まの月松や柳のよのし 石嶺

まの月松や柳のよのし 三子

まの月松や柳のよのし 士朗

まの月松や柳のよのし 三子

まの月松や柳のよのし 可於皇

まの月松や柳のよのし 三子

まの月松や柳のよのし 三子

まの月松や柳のよのし 三子

君の代の... 昔と  
 ... 木の月 一葉  
 ... 葉花  
 ... 赤葉  
 ... 横巻  
 ... 成美  
 ... 千歌  
 ... 井眉  
 ... 葦雨  
 ... 菊真

鳩鳩

... 三長  
 ... 吉明  
 ... 葛山  
 ... 可然里  
 ... 成美  
 ... 吉野  
 ... 藤人  
 ... 土胡

光 鷲

いづれにやむる田の橋の麓に  
西の若くはあつたふんふの  
西末  
とせり

いづれにやむる田の橋の麓に  
西の若くはあつたふんふの  
西末

樹の影に松島

おのれのちのち福ひの樹を  
護持

おのれのちのち福ひの樹を  
護持

おのれのちのち福ひの樹を  
護持

松山

いづれにやむる田の橋の麓に  
西の若くはあつたふんふの  
西末

いづれにやむる田の橋の麓に  
西の若くはあつたふんふの  
西末

浮葉

昔折るといふは後の浮葉か  
きり

おのれのちのち福ひの樹を  
護持

おのれの

おのれのちのち福ひの樹を  
護持

おのれのちのち福ひの樹を  
護持



子所の情をみよとてわたり  
 心利のなさをばばのたし  
 我のなさをばばのたし  
 未嘗

胡のよきものをばばのたし  
 未嘗

考

昔のよきものをばばのたし  
 未嘗

権

権をばばのたし  
 市井のよきものをばばのたし  
 未嘗

管

管をばばのたし  
 未嘗



乙二  
花の枝を  
貞櫻

鳥  
花の枝を  
未嘗

毛  
花の枝を  
文左

子  
花の枝を  
屋鳥

持振ちや  
三度入

我、先ん  
雄剛

三日月の  
鳳明

堀  
井眉

端幅やあのみく、暮山は  
さうりやみ条あすの枝折門 芥枝  
橋幅もあのみちと遊ばふ力 貞澄

牡丹

とやく、牡丹錦室堀の内 士朗  
日のまの心ゆつと牡丹は 大九  
有明の片り山にあらわん所 寒松  
白ら舞いこころに人の心あり 完素  
佳し合はれ傳しこゝろ牡丹は 榮飛  
ひこやかと牡丹のつをせりさか 三徳人

花の世ふくくはるく牡丹、那 榮飛

芍薬

芍薬はあひこもも西の子 榮飛  
みた代芍薬他も山あり那 士朗

牡丹

さひちやまを種あめのかたはる 三彦  
旅のちかきあそび牡丹は 葛三  
やいもの身はあめかきしる 士朗  
かきつる人のあめをうけぬ 成美  
影し山はあめかきしる 貞澄

大葵

時々々々山々々々のあひ 雨塘

のの

昔々々々々々々々々々々々々々々々 士綱

あひ々々々々々々々々々々々々々々々 乙二

ハッハッハッハッハッハッハッハッ 完来

ハッハッハッハッハッハッハッハッ 来曾

芥子花

芥子の花のあひのあひのあひ 木僊

芥子の花のあひのあひのあひ 可教皇

おあ 七子松のせりか 芥子の花 完来

白芥子の花のあひのあひのあひ 士綱

揮のあひのあひのあひのあひのあひ 乙二

酒のあひのあひのあひのあひのあひ 曹三

ハッハッハッハッハッハッハッハッ 来曾

ハッハッハッハッハッハッハッハッ 来曾

ハッハッハッハッハッハッハッハッ 来曾

ハッハッハッハッハッハッハッハッ 来曾

ハッハッハッハッハッハッハッハッ 来曾

ハッハッハッハッハッハッハッハッ 来曾

たけのこ 花子 高橋の 豊の 中より 貞深  
あまのこ 花子 高橋の 豊の 中より 梅英  
花子 高橋の 豊の 中より 岳松

松 貞

あまのこ 花子 高橋の 豊の 中より 中雄  
あまのこ 花子 高橋の 豊の 中より 秋香  
あまのこ 花子 高橋の 豊の 中より 菊石  
あまのこ 花子 高橋の 豊の 中より 桂子  
あまのこ 花子 高橋の 豊の 中より 梅英  
あまのこ 花子 高橋の 豊の 中より 岳松  
あまのこ 花子 高橋の 豊の 中より 貞深

五月

あまのこ 花子 高橋の 豊の 中より 菅三  
あまのこ 花子 高橋の 豊の 中より 梅英  
あまのこ 花子 高橋の 豊の 中より 岳松  
あまのこ 花子 高橋の 豊の 中より 貞深

幟

あまのこ 花子 高橋の 豊の 中より 完素  
あまのこ 花子 高橋の 豊の 中より 真梅  
あまのこ 花子 高橋の 豊の 中より 子竜

境

綜

あかしくとあ舟にけく縁が 宗紀  
 投入くくしきさるなりせ縁 乙二  
 ちしきあもものち縁の終つて 完未  
 後川もくつきる縁と那 三ほ人

拍まら

葉と下地あり

葉と入り下地や香に夢は

仁和香の悦しきなり下地 葉英

葉と

あやえ  
 葉のいんまのけのいああり 虚白

あやえ  
 呉行のりうしとせあやを登樓也  
 旅人のいんまのけのあやを子 完未  
 世の葉の尾くくしと新あやを 完未  
 あやえりあの子のたにるけり 野後  
 完未

あやえ  
 めいしとねしと今くたあめ 貞際

あやえ  
 しりち葉ありたあを遊ばや 完未

あやえ

夕に清一にの海に 省音

たふさか

つら川を切つ遊ぶたふさか 完素

いふ

浦の子たふさかたふさかきふ 牛心

たふさかたふさかたふさかたふさか 乙二

競馬

たふさかたふさかたふさかたふさか 奇劇

たふさかたふさかたふさかたふさか 虚白

くさくさのあつたあつたあつたあつた 丹看

くさくさのあつたあつたあつたあつた 貞標

片雨 音あの日

片雨のあつたあつたあつたあつた 北映

あつたあつたあつたあつたあつた 山 業葉

竹枝

竹枝のあつたあつたあつたあつた 士綱

我らあつたあつたあつたあつたあつた 首三

竹枝のあつたあつたあつたあつたあつた 休春

竹枝のあつたあつたあつたあつたあつた 孝雄



火車

山崎千伯父の僧の山崎茶 英大

松の葉の茶 蒼丸

赤の葉の茶 井眉

地 牛 地 地

新 嫩 の 茶 一 茶

花 鳥 の 茶 極 品

伊 勢 の 茶 土 韻

千 石 の 茶 省 吾

伊 豆 の 茶 菊 魚



枝 陸

村 崎 の 茶 午 心

高 野 の 茶 鳳 明

茶 葉

山 崎 の 茶 可 羅 丸

赤 葉 の 茶 葉 龍

茶 葉

山 崎 の 茶 三 年 丸

赤 葉 の 茶 午 心

茶 葉



Handwritten musical notation on a five-line staff, consisting of a series of rhythmic marks and stems.

Handwritten musical notation on a five-line staff, including various note values and stems.

石竹の花はさきさきの花の傍  
百合

わが春は人を知る花の傍  
百合

あつたはるの花はさきさきの花の傍  
百合

あつたはるの花はさきさきの花の傍  
百合

給上の子何れも... 末曾  
美人も世のなつちの... 鳳明

鳥尾草

... 車大

... 可也

青芒

... 乙二

... 白川

花葉

... 葉丸

鹿角子

... 葉丸

... 葉丸

... 葉丸

... 葉丸

葉丸

... 乙二

... 三六

... 葉丸

酸漿丸

いづれかたのまはるかに  
あはれなるものぞとて  
未嘗

夏夜

なつかしきものぞとて  
三光

田植

我ももよほし梅のまはるかに  
士羽

侍ももよほし梅のまはるかに  
首三

くわいしき人通る田植の  
素直

親なりし苗ももよほし  
大に

五廿三

いづれかたのまはるかに  
さき

入梅

いづれかたのまはるかに  
等光

いづれかたのまはるかに  
連也

五月雨

いづれかたのまはるかに  
好春

いづれかたのまはるかに  
蒼乳

いづれかたのまはるかに  
定来

いづれかたのまはるかに  
士朗

五月雨の伊勢に  
待たせり

五月園  
御山中に月々の西の中 甚西

六月  
六月廿九 十五 廿 万和

六月  
六月廿九 十五 廿 万和

六月  
六月廿九 十五 廿 万和

六月  
六月廿九 十五 廿 万和

五月園

御山中に月々の西の中 甚西

六月

六月廿九 十五 廿 万和

六月廿九 十五 廿 万和

六月

六月廿九 十五 廿 万和

六月廿九 十五 廿 万和

六月

六月廿九 十五 廿 万和

徳園會

我々もよもよもあはれに辨る兒 大梁  
大神人子もよもよもかき埃うふ 尺艾  
嘉定

人中にわらわらわらわら嘉祥海 井眉  
あまの御道いふあはれ人の侍 菘真  
有以納涼

播まきしししししししししししし  
さししししししししししししししししし  
紅のつら

交 廿五

あまの御道いふあはれ人の侍 雄河  
あまの御道いふあはれ人の侍 文左  
あまの御道いふあはれ人の侍 文九  
綿の心

あまの御道いふあはれ人の侍 貞興  
あまの御道いふあはれ人の侍 菊嶋  
葎の心

あまの御道いふあはれ人の侍 二十元  
あまの御道いふあはれ人の侍 雄  
蘭の心

蘭の花に陸路の子の山を 幽情  
西条の 花

西条の 花

柳の 花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

樽

樽の下の根を樽の足  
樽の下の根を樽の足  
樽の下の根を樽の足  
樽の下の根を樽の足  
樽の下の根を樽の足

凌宵

凌宵の下の根を樽の足  
凌宵の下の根を樽の足  
凌宵の下の根を樽の足  
凌宵の下の根を樽の足  
凌宵の下の根を樽の足

楮の足

楮の足の下の根を樽の足  
楮の足の下の根を樽の足  
楮の足の下の根を樽の足  
楮の足の下の根を樽の足  
楮の足の下の根を樽の足

麻

五廿七

百日紅

百日紅の下の根を樽の足  
百日紅の下の根を樽の足  
百日紅の下の根を樽の足  
百日紅の下の根を樽の足  
百日紅の下の根を樽の足





旅人の海松松公乃破四ノ丸 榎守  
川は舟のききまに流く月涼し 五明

石菖 河骨

石菖子 流くあまの暮の舟 菊真  
河骨の中は島寺のあり垣り 旅人

岸

岸より 流くあまの暮の舟  
岸中 一乃るあまの 旅人 舟心  
ふせくも岸より 流くあまの 舟心  
あまの流くも 流くあまの 舟心

藤花 藤川

藤花の流くあまの暮の舟 舟心  
藤川の流くあまの暮の舟 舟心  
藤川の流くあまの暮の舟 舟心  
あまの流くあまの暮の舟 舟心

瓜 瓜乃瓜

蔓々の流くあまの暮の舟 舟心  
柳あまの流くあまの暮の舟 舟心  
瓜蔓の流くあまの暮の舟 舟心  
蔓の流くあまの暮の舟 舟心

老らるる丘のちり起る

遠

遠のちり人ありみきりなむ  
くくく遠のちり山田の形  
鳥先  
吹満く白遠のちり  
我よのちり消る遠のちり  
貞隈

輝

輝のちり島より内桂を  
輝のちり長は輝のちり  
葉依も山に輝のちり  
成章

交三十

あやのちり舟場なる輝のちり  
六車

ねのちりまき日と輝のちり  
乃和

山のちりさのちりせのちり  
菊奥

輝のちり林のちり梅のちり  
未曾

夏雲

夏の雲のちり白鷺と並るのちり  
鳥頂

雪と

くくくく月おんかき  
雪雄

くくくくくくくくくく  
三子虎

くくくくくくくくくく  
三子虎

あやしくし舟やんくまの嶺  
わが橋や蔵のるよりちの露  
髪はく馬のりけり我やまの

百  
兩

あやしくし舟やんくまの嶺  
あやしくし舟やんくまの嶺  
あやしくし舟やんくまの嶺  
あやしくし舟やんくまの嶺  
あやしくし舟やんくまの嶺

五世一

あやしくし舟やんくまの嶺  
あやしくし舟やんくまの嶺  
あやしくし舟やんくまの嶺  
あやしくし舟やんくまの嶺  
あやしくし舟やんくまの嶺

文  
る

あやしくし舟やんくまの嶺  
あやしくし舟やんくまの嶺  
あやしくし舟やんくまの嶺  
あやしくし舟やんくまの嶺  
あやしくし舟やんくまの嶺

17 鴉

中よりちかちかしく 鴉 鴉 鴉 草池  
よのちかちかしく 走る 鴉の外 椿也  
むしーうらうら 鳥のさく 戸りぐ 葵亭

川 鴉 や 飛 ぶ 必 意 世 々 々 の 大 丸  
川 鴉 の 泣 台 志 々 々 鳥 々 々 の 泉 富

鴉

波 一 乃 鴉 射 出 ぐ 々 々 葉 々 々 々 三 千 六  
あ の め の し 々 々 葉 々 々 鴉 々 々 定 車  
あ の め の し 鴉 の 羽 々 々 葉 々 々 々 出 卷

二反世二

涼

鴉 乃 舞 田 木 乃 寺 々 々 出 ぬ 不 和  
鴉 の 舞 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 横 巻

古 々 々 々 々 々 々 々 々 々 月 の 花 々 々 士 綱

々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 成 美

々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 昔 三

ゆ 涼

々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 一 茶

々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 乙 二

々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 寛 松

草のあやと大のくらしのくらし  
さきとくしとくしとくしとくし  
三才

暑

大城のくらしと大のくらし  
あやとくしとくしとくしとくし  
三才  
つくとくしとくしとくしとくし  
可成  
戸乃路のくらしと大のくらし  
成美  
あやとくしとくしとくしとくし  
石城  
井のくらしと大のくらし

大夏 日傘

大夏や井之夜入りの月の色  
三才  
初休寺の楊のくらしと日傘  
未嘗

炎天

炎天のくらしと大のくらし  
井眉  
あやとくしとくしとくしとくし  
魚眼

雪

雪のくらしと大のくらし  
士羽  
あやとくしとくしとくしとくし  
未嘗

おもしろい得山とつむ古用と人  
おもしろい舟の底旋と角が 未嘗

尺量

おもしろいのまきなりしはるる 昔之

おもしろい花やうきとやうき 糸丸

帷子 羅

おもしろいやうきとやうきの色とまき 午心

おもしろいおもしろい舟の中 乙二

おもしろいおもしろい舟の中 友之

おもしろいおもしろい舟の中 三六

友世記

けい

おもしろいおもしろい舟の中 友因

おもしろいおもしろい舟の中 午心

晒

おもしろいおもしろい舟の中 標也

おもしろいおもしろい舟の中 太刀

麻 巾

おもしろいおもしろい舟の中 乙二

掛 香

おもしろいおもしろい舟の中 文丸

行 行 拭い

行の正さあるはよめる一茶  
玉の影の團まあるし行ぬい 三友

扇

か茂川にありては外り家なり 雄剛  
夕の影の團まあるし行ぬい 一茶  
夕の影の團まあるし行ぬい 一茶

けりしおの影の團まあるし行ぬい 一茶

扇

扇の影の團まあるし行ぬい 一茶

友世又

筆

白くは降るる影の團まあるし行ぬい 一茶  
老の影の團まあるし行ぬい 一茶  
夕の影の團まあるし行ぬい 一茶  
夕の影の團まあるし行ぬい 一茶  
夕の影の團まあるし行ぬい 一茶  
夕の影の團まあるし行ぬい 一茶  
夕の影の團まあるし行ぬい 一茶  
夕の影の團まあるし行ぬい 一茶  
夕の影の團まあるし行ぬい 一茶  
夕の影の團まあるし行ぬい 一茶

竹 掃人

のり乃ち侍より下りて中婦人 可成程  
 きつと侍におぼとけに侍婦人 三浦人  
 子小某のおもふに女中侍婦人 貞興  
 竹奴  
 人妻と稱して遊り竹奴 又左  
 抱巻  
 抱巻の白雲明くは侍心なき 丑明  
 抱巻の夢や月をにぎひ 柳花  
 抱巻のや夢をにひ 蘇夜姫 梅鳥  
 簑枕

ろく  
 心太  
 月  
 水  
 乙二  
 松  
 菜花



一夜酒 吟汁 花 尚 香 の 吟 じ ゅ せ ぎ 未 曾

斗 酒 花 山 竹 子 の 花 山 竹 子 三 行

鮎

鮎 乃 青 竹 花 之 香 須 廣 泊 未 曾

鮎

海 月 鮎 乃 青 竹 花 之 香 須 廣 泊 未 曾

及世七

林檎 李 花 酒 の 名 に なる 海 月 六 首 三

林檎 李

林檎 李 花 酒 の 名 に なる 海 月 六 首 三

葛 花 梅 子 香 需 散

葛 花 梅 子 香 需 散

葛 花 梅 子 香 需 散

清 水 泉

清 水 泉

清 水 泉

旅人の帰途 久留まが 昔こ  
きりありてくさくさ 薄くは 桂屋  
香るるさくさ 泉と我ふと 常美  
茅の婦 湯後

俳諧近世数句類題集夏部 畢  
大に丸 雪雄  
士明



五廿八

# 天地恣門珠

全部二冊

天地日月風雷雨地震杭火古位鬼門の怪鬼神  
権利地獄極樂々事那那の夢人の生る始女お化温  
池水血ふる高山煙立谷青龍宮の鏡そのほり世は  
て合点のつらさの妻くくしてさけさけさるるが  
おとも月あつを月の光さけけ。水の精とさる。月能  
。月桂の面束おのけ返さささくさる余は誰ぞ  
此のうへんさるるさるるおおまき大お益る書あり

明袁了凡著

浪華南里亭主人増補

# 和語陰騭文繪抄

全部二冊

東武葛飾戴斗画圖

此書の陰徳と経て天の陽報と善しれ善と  
わして福とほ余の五十返子るれ余も功德の  
報よりて善徳の世徳とに又或は刀を自さくも  
箇中の身とる又積徳の徳とに積徳和澤  
の福徳とほけ徳と如見女のさる安く神へも  
おはせぬさる凡の徳のさる若く長壽  
るる福徳さるるさるるさるるさるるさるる  
画家好しとるさるるさるるさるるさるる

